

防災教育を自校化する上での工夫

新潟市防災教育コンソーシアム

各小中学校において防災教育を着実に実施・継続させていく上で、「時間数の確保」や「地域との連携」等共通する課題がわかってきました。新潟市では『ふるさと新潟防災教育推進事業』を活用し、全小中学校を5か年に分けて、防災教育の指定校を定め、1年間かけて防災教育の自校化に向けた実践を行っています。過去の指定校では、上記の課題を解決するために様々な工夫が行われました。以下に主な取組を紹介します。

※ここで紹介した取組はあくまでも一例であり、各学校の指定年度における唯一の取組というわけではありません。

※中越大震災の義援金事業である『ふるさと新潟防災教育推進事業』では、防災教育の自校化を、

「①県防災教育プログラムを参考にした防災教育に取り組んでいる」

「②家庭や地域と連携した実践的な防災教育に取り組んでいる」

「③防災教育がカリキュラムに位置付けられ継続的に実施している」の3条件を満たした状態のこと、ととらえています。

【大規模校】

児童・生徒数が多く、防災教育に取り組み始めることが困難な場合でも、既存の学校行事を発展させたり、学年単位で実施したり、負担の少ない形で行うことは可能です。



鳥屋野中



坂井輪中

- ・既に実施している「地域と連携した地域別集会活動」を防災の視点から発展させて実施（鳥屋野中）
- ・県プログラムを学年単位で実施する計画をつくり着実に実施（坂井輪中）（新通小）

【教科との関連】

総合的な学習の時間における地域学習や、社会科、理科、家庭科、道徳など既存教科と関連させることで、新たな時間数を確保せずに取り組むことも可能です。



大淵小



大江山中

- ・4年生総合「阿賀野川の恵み」と関連させる（大淵小）
- ・5年生社会科「自然災害とともに生きる」と関連させる（岩室小）
- ・中学校家庭科「幼児とのふれあい」と関連させる（大江山中）

【学校生活との関連】

昼休みや学級活動、ホームルーム活動の時間を活用したり、学校図書館と連携したりすることで、日常の中で防災について考えさせることができます。短時間でも日常に溶け込ませることで、災害から命を守る姿勢を育むことにつながります。



山の下小



白山小

- ・プログラム実施時期に合わせた防災図書コーナーの設置や防災関連絵本の読み聞かせ（山の下小）
- ・ホームルーム活動等で担当が防災に関する話題を出す（白新中）
- ・防災週間を設定し、昼休みに防災グッズビンゴと防災体操を行う（白山小）

【地域住民との連携】

防災に関する特別な技能を持った人だけでなく、地域に長く住んでいる方から、地域で起こった災害についてお話ししていただいたり、一緒に防災を考えたりすることも防災教育につながります。



早通中



白南中

- ・地域で起こった過去の災害について話を聞く（上所小）（山の下中）
- ・地域に住んでいる人と防災を一緒に考える（早通中）（白南中）
- ・地域の防災士(※)を活用する（坂井東小）（茨曾根小）（西内野小）（早通南小）

避難訓練の講評／講座のサポート／ゲストスピーカーとして／体験講座講師として

※防災士とは、NPO 法人日本防災士機構の試験に合格し、防災に関する一定の知識と技能を取得したことを認められた人。

防災士資格を保有している方の知識と技能は人によってさまざまです。

※新潟市防災教育コンソーシアムとは

新潟市教育委員会が新潟県『ふるさと新潟防災教育推進事業（学校実践）』に申請し、その補助金を活用した『「防災教育」学校・地域連携事業』において、各小中学校の支援にあたる連合体のこと。（公社）中越防災安全推進機構・（特活）ふるさと未来創造堂・（特活）にいがた災害ボランティアネットワークの3者から構成されている。

防災教育を自校化する上での工夫

新潟市防災教育コンソーシアム

【地域の組織・団体との連携】

他校種・自治会・消防団・消防署・公民館・区役所・介護施設など地域内には連携可能な団体が数多く存在します。地域の組織とつながることで、学校では持ちえない様々な体験や人の想いに触れることができます。



- ・校区の中学校教員がゲストの授業を実施（鏡淵小）
- ・校区の中学校生徒と4～6年生の合同防災教室を実施（臼井小）
- ・既存の新潟薬科大との連携に防災要素を加えた濾過実験を文化祭・参観日に実施（新津第一小）
- ・消防団員による活動にかける想い、自治会長による地区防災訓練についての講話（丸山小）
- ・町内会・自治会への地域防災の実態聞き取り（新津第一中）（松浜中）
- ・市に段ボールベッドを借りて組み立て体験（新飯田小）
- ・地域と合同防災訓練を実施（庄瀬小）
- ・消防署と連携（希望が丘分校）（岩室中）（内野中）
- ・デイサービスセンター入所者への避難補助・職員を講師とした車いす講習（臼井中）

【家庭との連携】

子どもに日々接するのは家族です。学校で行った防災教育を家庭につなぐことは子どもの生きる力を育む上で重要です。コメントを貰ったり、防災ルール作りを宿題にしたり取り組みやすい方法はたくさんあります。



内野小



新津第三小

① 今日、防災教室で勉強したことを、おうちの人にもお話ししましょう。

② 今日の防災教室で、思ったことや感じたことを書きましょう。

私は、コンビニの中がくずれるのを見て、ここに自分がいたらどうなるだろうと考えました。それに、体験した人のお話を聞いて、もし自分に地震などの災害が起きたらこうなるのかと思いました。今日の体験談は、しょうらい役に立つと思うので、しっかり覚えておきたいです。

③ おうちの人から、一言コメントを書いてもらいましょう。

中越地震の時はまだ生まれてなかったのですが、その当時のこの辺りの様子など思い出して家族で話したい本数回です。

～ 保護者の方へ ～

11月17日(木)に、全校で「地震に関する防災教室」を行いました。地震が起きたときに倒れたり動いたり落ちたりする物はどんなものかを考えたり、中越地震を実際に体験した方の話を聞いたりして、防災に対する意識を高める学習をしました。

お子さんのお話を聞いて感じたことや、防災について日頃から考えていることがありましたら、ぜひ感想をお寄せください。学校だけでなく、保護者も防災について意識していることをお子さんに伝えることは、防災教育の大切な学習内容だと考えています。この機会に、ぜひ一緒に話をしてみてください。ご協力をよろしくお願いいたします。

和納小

- ・防災学習で習ったことを子どもから家族へ伝えさせ、ワークシートにコメントを貰ってくる (和納小)
- ・家族との非常持出し品のチェックや災害時の待ち合わせ場所決めを宿題にする (桃山小) (内野小)
- ・引き渡し訓練後に保護者からアンケートをもらい、次年度の参考にする (松浜小)
- ・防災学習の日を授業参観日にあてる (女池小)
- ・文化祭で防災を学ぶブースを設置して親子で学ぶ (新津第三小)